

第12回世界精神医学会（WPA）横浜大会
精従懇特別フォーラム「精神保健福祉の変革」

The Reform of Mental Health Care System

代表幹事 樋田 精一

2002年8月、世界精神医学会 World Psychiatric Association (WPA) の大会がアジアで初めて、パシフィコ横浜（横浜国際平和会議場）で開催されました。この大会の主管はこの年が学会創立百周年にあたる日本精神神経学会で、精神保健従事者団体懇談会（精従懇）も早くから協力してこの大会の準備に参加してきました。そして、この大会中の一日、8月25日に精従懇特別フォーラムがメインホールで行われました。

精従懇は、1986年発足以来、精神保健福祉関連諸団体（2002年当時、日本精神神経学会等19団体）が一堂に会し、定期的に例会を持ち、精神保健法が制定されて以後の精神保健福祉の状況について、意見の交換、シンポジウム等の勉強会、国の施策に関する見解等の提出、必要な運動等々を行ってきました。これまで、フォーラムを次のとおり、精神保健法の見直し、障害者プランの制定、といった重要な課題のある時ごとに、3回開催しました。

第1回 「精神医療の抜本的改革に向けて」（1988年2月：京都）

第2回 「精神医療は変わったか／私たちは変わったか—精神医療改革と精神保健法見直しへの提言」（1991年11月：幕張）

第3回 「ノーマライゼーションへの転換をめざして」（1998年6月：横浜）

WPA 横浜大会当時の状況は、大きな社会経済的な変動を背景として精神保健上危機的な問題がさまざまな領域で顕在化してきている中で、精神保健福祉施策の立ち遅れはなお著しく、特例の撤廃を求めた医療法の改正が2000年秋以降の検討にもかかわらず不十分に終わったところに、「心神喪失者等医療観察法案」が国会に上程され、また、新しい障害者施策（10年計画）が策定されようとしていました。このような状況にどのような対応がなされなければならないのか、私たちの進むべき道を明らかにし、国に対しても必要な施策を引き出していこう、ということから、精従懇は第4回目のフォーラムを開催することとしたものです。それが、WPA 大会の中で行われた「精従懇特別フォーラム」で、メンタルヘルス、人権と医療、福祉等をテーマとする4つのシンポジウムによって構成され、当日は、WPA の大会に参加した世界の人々を交えた討論の後、日本の精神保健改革に向けた提言が採択されました。

（WPA は、大会を3年に1度、世界各地で開催していますが、今回は21世紀最初の大会にあたり、大会の基本テーマは「手をつなごう心の世紀に」Partnership for Mental Health でした。近代精神医学も日本精神神経学会と同様に100年余りを経過し、地球人類の存亡がかかると言われる21世紀にまさにその真価が問われると言え、21世紀初頭に、アジアで初めて開催される本大会はその点でも重要な位置を占めるものでした。なお、WPA の大会には、医師だけでなく精神医学に関わるさまざまな職種の人たち、患者・家族、行政関係者も参加しています。）